

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275600128		
法人名	有限会社グループホーム光		
事業所名	グループホーム光		
所在地	千葉県山武郡横芝光町原方2486		
自己評価作成日	令和元年11月3日	評価結果市町村受理日	令和2年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽
所在地	千葉県旭市口1004-17
訪問調査日	令和1年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

世代を超えた交流で、幼老統合ケアを目指してきている。子供たちからお年寄りが元気をもらっている姿が日常的に見られるようになってきている。昨年の夏は野菜づくりにも達し、収穫の楽しみも味わうことが出来た。今後は、より一層子供、スタッフ、利用者の三世代で園芸を通じてより交流を深め、利用者が子供たちの名前を呼べるような取り組みを行っていく。施設内に一緒に暮らす、犬の二代目はなもすっかり介護犬の役目を果たしており、一緒に長生きしてもらいたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内に、学童・放課後デイがあり、併設には通所介護があることにより日々の生活の中で、馴染みや世代を超えた交流が生まれている。地域への祭りへの参加にも積極的であり、生活の中での目標を立てて行っているようにサポートしている。敷地内での畑では野菜を作り、調理に使い喜びなどを共有している。iPadを使うことで情報管理がしやすく、共有もしやすくなっている。定期的な内科の往診、歯科医の口腔チェックもあり健康面へのサポートもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の下で利用者がその能力に応じて機能訓練を行うことにより、可能な限り自立した生活が営めるよう努めている。	理念は事務所に掲示し、出勤時には確認は出来るが、理念の周知には至っていない。	理念の周知を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加している。また事業所で行う行事には家族の参加も呼びかけ、利用者が家族と触れ合える機会を作っている。学童の家族も参加できる行事も実施しており地域の家族も参加している。	同じ建物内で通所介護、隣接にで放課後デイや学童保育があり、交流がある。また、地域の祭り等への参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方が施設のことを質問された折に、認知症の状況について説明し、介護の相談等にも生かしている。また、利用者との散歩中に挨拶を通じて理解を求めようとしている。		
	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、利用者の行事だけの報告には留まらず、委員を含めた研修も行いながら、より良いサービスの提供に心掛けている。	運営促進会議は二ヶ月に一回定期的に開催している。多方面に出席の依頼をし参加してもらっているが、家族の参加は少ない。	職員の出席はあるが記録として残っていないので改善を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退所の状況は逐一報告している。また、利用者の紹介を戴いたり協力関係を築いている。	連絡は密にしており担当者とは協力関係を築くようにしている。災害時には協力をしてもらえた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、すべての職員が閲覧できるようにしている。またやむを得ず身体拘束する場合は、家族の同意を得て、記録をつけている。それ以外に関しては職員による見守りで対応している。	現在、身体拘束は行っていない。マニュアル等の作成をし職員には周知されている。外部研修への参加は現在ない。	介護の現場も日々進歩していくので、新しい情報を得る為の対応を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種研修を通じ、虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表が市民後見の研修を受講し、職員に都度、学ぶ機会を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には職員が説明を行い、不明な点に関しての質問等には、十分に納得行くよう答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに利用者の家族にはいつて頂きながら、町や、地域包括支援センターに、意見要望を伝えてもらっている。	様子などは毎月手紙で報告し、家族の面会時などには話を聞くようにしているが、運営についての意見は出ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議を月に一回設けて、利用者の状況と合わせて、職員の意見や提案を出している。また、反映させている。	意見が言いやすい環境を整えているが、反映されていない部分もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心ややりがいは職場が楽しくなければ持てないので、和やかで笑いのある職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技能向上のための研修の機会はできるだけ設けている。また研修のための費用も会社が負担し、職員の負担を減らすよう努めている。今年度は介護福祉士会のデンマーク研修に若手の介護福祉士が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会に参加したり、当事業所で研修会を行ったりと相互のレベルアップをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多面的な見方ができるよう、管理者、スタッフ、ケアマネなど色々な形でのコミュニケーションをとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前によく話し合い、希望があれば体験入所等を行い、本人、家族の納得のできる状況での入所を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接に施設の入所ではなく、デイサービスを受けたり、入所を体験したりと、色々な選択があることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度が上がるに従い、暮らしを共にするという関係が難しくなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が不穏な時など、家族の方が会うことで本人が穏やかな気持ちになれるよう協力いただくなどしている。また休日などを利用して、施設を訪ねてくる家族も多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人が訪れて、話をしに来たり演奏を披露しに来てくれたりする。また、地域のお祭りなど和える機会を設けている。産業まつり、文化祭など。今回の文化祭には展示だけではなく、利用者とスタッフで合唱に参加する。	デイサービスの利用の方との交流や絵手紙を出したり、パンの販売の方、友人、前の職場の方などの訪問があり交流はある。文化祭等には展示や合唱にも参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人、部屋の中でのいるような場合は、声掛けをして他の皆さんと一緒に居られるようにしている。ほとんどの皆さんが、日中はフロアで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になった方にも行事のお誘いや、電話で声を聴く等、見守りを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員、家族、本人の情報を密にして、把握に努めている。	日々の介護の中で要望など気が付いた時にはiPadへ記入し、職員が周知するようにし、家族とは話し合いをもって行っている。要望があれば対応していくように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や介護支援専門員からの情報を踏まえて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子など記録としてノートにのこしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会に来た時や、電話、手紙などで家族に相談するようにしている。毎月のケア会議をモニタリングと位置付けて、利用者一人ひとりの状況を全体で共有する機会ともなっている。	月1回のケア会議で全職員参加のもと意見を出し合って作成しているが、評価などの記入はない。	介護計画書の役割を理解し、会議の内容等を反映させ評価とし記録として残す事を望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットでの入力を行っており、逐一、個々の状況や出来事が逐一把握で知る。また、月に一度ケア会議を開き、個別のケアの実践・結果などを共有し、介護に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	学童に加えて、障がい児童の受け入れ、放課後等デイサービスも開始し、富山型デイサービスのような施設運営に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体の協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の往診の他随時受診できるようにしている。また治療方針は利用者本人の気持ちや家族の意向にそえるようにしている。	月1回の内科の往診はあり、歯科医にも毎月口腔チェックを行ってもらっている。かかりつけ医への受診後には家族へ報告をし、情報はiPadにて共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録や気づき等は、看護職が出勤してきた際に伝え、適切な受診や処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	町の東陽病院とは、密に連絡を取り、入院時や、空室が出た際の情報提供を行い、連携が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師や看護師、家族と話し合い、看取りの指針や同意を得て、同意書などを作成、保管している。	入居時には重度化・看取りの指針につきて説明をし同意をもらっており、看取りは内部研修を行ったり、大会等への参加もしている。心のケアについても十分に話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適時、救急救命講習等を地元消防署に依頼し、職員の対応力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等は行っているが、車イス利用の利用者も多く、夜勤帯の時間に災害が起こった時の対応力に不安が残る。今般の台風での停電は施設内にある電気自動車を蓄電池代わりに利用し、施設内の電気を賄うV2Hを活用し、5日間の停電も乗り切れた。	年2回消防の方の指導のもと訓練を行っている。夜間訓練も行っているが、夜勤者のみでは行っていない。近所の方も協力を得ている。災害時には職員の対応で乗り切れた。	訓練後の振り返りの記入、訓練を時には火災以外のものへの変更、夜勤者のみで行ってみるなどの対応を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの仕方など、職員同士で工夫しあったり、会議の際に話し合ったりしている。	接遇への外部研修への参加し、内部研修を行い気がついた事があれば、その都度注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己の思いや希望を表したり、決定できるようわかりやすい説明を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時間などもなるべく本人のペースを優先するよう心掛けているが、トイレ介助など職員側の都合によって行動してしまうことはある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員に資格者がいるのでホームで無料で理容・美容をおこなっている。また、協力して戴ける方々からバザーでの洋服などを送っていただき、利用者が有効に利用できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の監修した食材を注文し、調理の職員が好き嫌いを把握し、利用者の希望に添うようにしている。準備の手伝いなどではできるだけ参加を促すようにしているが、重度化や認知症などで参加できない人も多い。	本人の要望に合うようにはしており、コップは本人の物を使用。畑で採れた野菜も使ったり月1回調理レクを行い、利用者も楽しんでいる。口腔体操は毎日行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録として残している。栄養バランスにヨシケイ食材を利用しながら食事を提供し、状態に応じて食べる量などを勘案している。食事は一人一人に応じて食べやすい形態にしてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が食事後口腔ケアを行う他、定期的に訪問歯科が来所し口腔ケアを行っている。誤嚥性肺炎などの防止に効果を上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ利用から、ポータブルトイレ利用に変更になった利用者もあり、削減になった例もある。尿意の分からない利用者については、一層のパターンの読み取りが必要である。	排泄パターンの把握につとめ、iPadにて共有している。自立までには至っていないが、一定の成果は出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んだり、食物繊維の多い食べ物を取るよう工夫し、予防している。適度な運動も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に小人数で毎日行っている。順番はできるだけ本人の希望を取り入れてはいる。生活パターンからいうと夕方の利用が良いのだろうが、日中の入浴になっている。	週2回の入浴の予定ではあるが、希望があれば入浴の回数は増やせるようにはしており、行事湯や入浴剤で気分を変えている。毎朝はホットタオルで顔を拭いてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた様子だったり、夜間に眠れなかった場合は、職員が付き添い安心するよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は服薬ノートやスタッフ連絡帳などで記録し、職員間の情報の共有をするように努めている。また、会議でも服薬の変更や症状について共通理解をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜づくり、音楽療法、おやつ作り等々、利用者の気分転換になるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事やイベントなどがある際は必ず声をかけ外出する機会を促している。高齢のため、誘っても外出の回数は少なくなっている。今年は、RUN伴というタスキリレーに参加した。	地域への祭りへの参加、外食、外泊等をすすめており、日々は近くまで散歩に出かけたりして公園でお茶など飲んだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては認知症による症状がない場合は本人所持を支援している。障害者施設からのパンの訪問販売を受け入れており、クーポンによる買い物なども行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば電話をしたり出来るよう支援している。携帯電話の所持や年始の年賀状なども本人が書けるよう支援している。絵手紙の講師を依頼し、暑中見舞いを書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の清掃は毎日行っている。季節の植物を飾ったり、部屋の温度が適温になるよう調節している。	清掃は毎日行っており、トイレの清潔に保たれている。フローには利用者との作品が飾ってあったり、生花を置き季節感を出す工夫がある。犬は施設内で飼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が同じテーブルになるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から利用してきた家具や調度品を利用するよう勧めている。また、食器などは個別の使い慣れたものを使うようにしている。	居室は自分の家具を持参してもらい、好きなように飾りつけも行ってもらっている。布団は月1回は干すようにし、シーツ交換は週1回行っている。部屋は月1回消毒も行っている。布団が冷たいと眠りにくいので布団乾燥機の購入を検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール及び廊下にセキュリティカメラを設置し、安全に配慮しながら、遠隔からでも見守れる配慮を行っている。		